

'24~'25 インフルエンザワクチンは4価のワクチンです。

◆ A 型株

A/ビクトリア/4897/2022 (IVR-238) (H1N1)

A/カリフォルニア/122/2022 (SAN-022) (H3N2)

◆ B 型株

B/プーケット/3073/2013 (山形系統)

B/オーストリア/1359417/2021 (BVR-26) (ビクトリア系統)

・有効性

インフルエンザワクチンの有効性は、流行株とワクチン製造株の抗原性の一致度によっても異なるとされています。米国疾病対策予防センター（CDC）が公表している 2009 年から 2023 年までのインフルエンザワクチンの有効性の推定値においても年次差が見られ、2023-24 期の有効性は 42%と推定されています。

また、欧州疾病予防管理センター（ECDC）のプライマリケアおよび病院が参加する複数国の研究においてもインフルエンザワクチンの有効性には年次差が見られ、2023-24 期の有効性はそれぞれ 51%、38%と推定されています。

わが国では、インフルエンザワクチンを接種すればインフルエンザに絶対にかからないというものではありませんが、発病後の重症化や死亡を予防することに関しては一定の効果があるとされています。

・安全性

インフルエンザワクチンの接種後には、注射部位の発赤、痛み、腫れなどの局所反応や、発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、関節痛、筋肉痛などの全身反応を含む副反応が出現する可能性があります。これらの副反応は、通常、2~3 日以内に消失します。また重い副反応の報告がまれにあります。ただし、報告された副反応の原因がワクチン接種によるものかどうかは、必ずしも明らかではありません。インフルエンザワクチンの接種後に報告された副反応が疑われる症状等については、順次評価が行われ公表されています。

